

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2019/20 年度

生産量

前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・スリランカ等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量

前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・タイ等で上方修正も、ギニア、スリランカ等で下方修正され、前月から下方修正された。

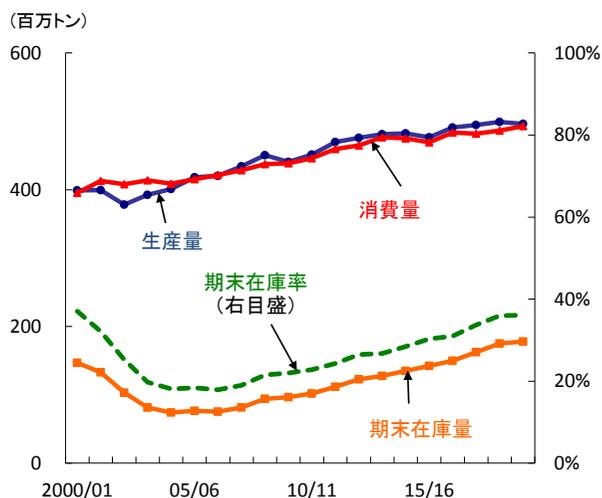
輸出量

前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・インド、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2020.2.11)をもとに農林水産省にて作成

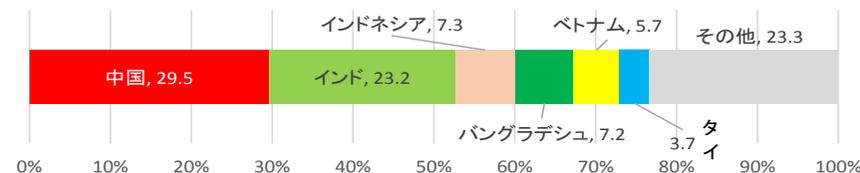
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

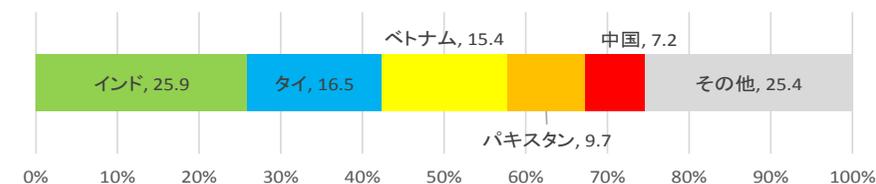
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	494.8	499.2	496.2	▲ 0.5	▲ 0.6
消費量	482.2	486.8	493.1	▲ 0.9	1.3
輸出量	47.2	43.7	44.8	▲ 0.8	2.5
輸入量	46.6	43.1	42.7	▲ 0.4	▲ 1.1
期末在庫量	162.6	175.0	178.1	1.0	1.8
期末在庫率	33.7%	36.0%	36.1%	0.3	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 February 2020)

○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (496.2 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (44.8 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (42.7 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】12月上旬までに、収穫は全米で終了した。

USDAによれば、生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比17.6%減の5.9百万精米トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約3割を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、中・短粒種の輸出の減少はあるものの、長粒種の輸出が伸びていることから、対前年度5.7%増の3.1百万精米トンの見込み。輸入量は、前月から0.1百万トン上方修正され、対前年度12.0%増の1.0百万精米トンの見込み。これは、過去最高の輸入量であり、「Rice outlook」(2020.2.13)によれば、中・短粒種が対前年度比16%と増えている。主に、米領プエルトリコ向けに、中国から輸入されているものが、増加している。

米－米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	5.9	-	▲ 17.6
消費量	4.3	4.6	4.2	-	▲ 7.7
輸出量	2.8	3.0	3.1	0.0	5.7
輸入量	0.9	0.9	1.0	0.1	12.0
期末在庫量	0.9	1.4	1.0	0.0	▲ 33.1
期末在庫率	13.2%	18.8%	12.9%	0.5	▲ 5.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.38	-	▲ 2.8

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)

< インド >

【生育・生産動向】現在、インドでは、ラビ米の作付け期である。南部及び南東部では、圃場準備期から初期栄養生長期である。

インド農業省によると、1月31日時点でのラビ米の作付け済み面積は、2.9百万ヘクタールと前年同期(2.5百万ヘクタール)を上回っている。

USDAによれば、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.2%減の115.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、0.6百万トン下方修正され、対前年度比7.5%増の11.2百万トンと、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、2月時点の政府備蓄量は27.5百万トンと1月1日時点の備蓄必要量(7.6百万トン)を大きく上回っている。

米－インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	116.4	115.0 (115.0)	-	▲ 1.2
消費量	98.7	99.1	102.5 (102.4)	-	3.4
輸出量	12.0	10.4	11.2 (10.4)	▲ 0.6	7.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	29.5	30.8 (30.7)	0.6	4.4
期末在庫率	20.4%	26.9%	27.1% (27.2%)	0.7	0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.77	43.80	43.50 (43.25)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	3.86	3.99	3.97 (2.66)	-	▲ 0.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)

IGC「Grain Market Report (23 January 2020)」(単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.9%増の28.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.2%増の7.0百万トンの見込み。

なお、2020年1月の輸出は、数量では41万トンと対前年同期比(43万トン)で4.6%減となるものの、輸出単価が上昇したため、金額では196.5百万USドルと対前年同期比(192.3百万USドル)で2.2%増加している。その内訳(数量)は、フィリピン向けが32.9%を占める。前年度と比較してイラク、モザンビーク、中国、マレーシア等への輸出量が増えている。

< 中国 >

【生育・生産動向】2019/20年度の二期作晩稲及び一期作稲の収穫は終了した。

USDAによれば、2019/20年度の前月予測から変更はなく、対前年度比1.2%減の146.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月から0.1百万トン下方修正され、対前年度比15.5%増の3.2百万トンの見込み。中国の安価な米輸出は、価格を重視する輸入国にとって魅力的となっている。

一方、輸入量は前月予測から変更はなく、対前年度比20.0%減の2.4百万トンの見通しとなり、2009/10年度以来、10年ぶりに純輸出国となる見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(1月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,680元/トン、4,120元/トン、3,680元/トン。インディカ米価格は、春節向け需要の増加で上昇。ジャポニカ米価格は東北地区の輸送制限により下落。

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.8	28.3 (28.8)	-	1.9
消費量	21.5	21.4	21.5 (22.6)	-	0.7
輸出量	6.6	6.9	7.0 (6.8)	-	2.2
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.0	1.2 (3.4)	-	20.0
期末在庫率	3.7%	3.5%	4.2% (11.4%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.65	7.62	7.67 (7.57)	-	0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.81)	-	1.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)
IGC「Grain Market Report (23 January 2020)」(単収は精米t/ha)

米-中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.7 (146.7)	-	▲ 1.2
消費量	142.5	142.7	142.9 (143.3)	▲ 0.1	0.1
輸出量	1.4	2.8	3.2 (3.5)	▲ 0.1	15.5
輸入量	5.5	3.0	2.4 (2.5)	-	▲ 20.0
期末在庫量	109.0	115.0	118.0 (113.4)	0.8	2.6
期末在庫率	75.8%	79.0%	80.8% (77.3%)	0.6	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	29.69 (29.69)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	7.06 (4.94)	-	0.4

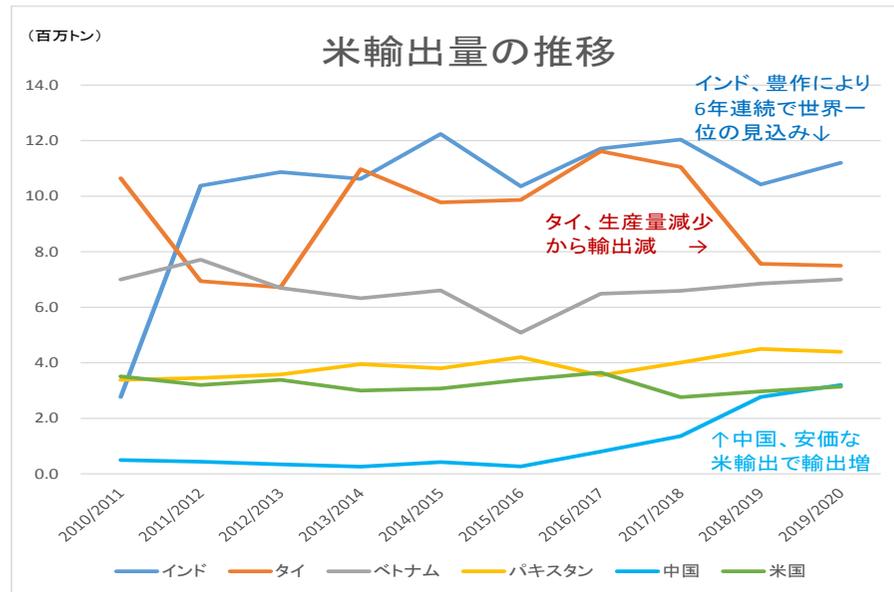
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)
IGC「Grain Market Report (23 January 2020)」(単収は精米t/ha)

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比9%減の18.5百万トンの見込み。収穫面積は対前年度比7.7%減少、単収は対前年度比1.8%減少。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.8%減の7.5百万トンの見込み。これは過去7年間で最も低い水準である。

輸出価格は2020年1月14日時点では468ドル/トン、2月19日時点では470ドル/トンとなっており、タイ産米の乾季米の減産見込みを受け上昇し、470ドル/トン台前後で推移している。



資料：USDA「PS&D」(2020.2.11)をもとに農林水産省にて作成

米ータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	18.5 (19.2)	-	▲ 9.0
消費量	11.0	11.8	11.7 (11.4)	0.2	▲ 0.8
輸出量	11.1	7.6	7.5 (8.0)	-	▲ 0.8
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	4.2	3.8 (4.4)	0.1	▲ 10.6
期末在庫率	13.6%	21.9%	19.7% (22.8%)	0.5	▲ 2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.00 (10.33)	-	▲ 7.7
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.80 (1.86)	-	▲ 1.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)、
IGC「Grain Market Report (23 January 2020)」(単収は精米t/ha)



写真 タイ中部スパンブリー県の水田
地方政府から、水源の確保ができないため、雨季まで稲作を待つよう指示があった。1月末になっても、降雨がなく、水源の確保ができない。

(2020.1.30撮影)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

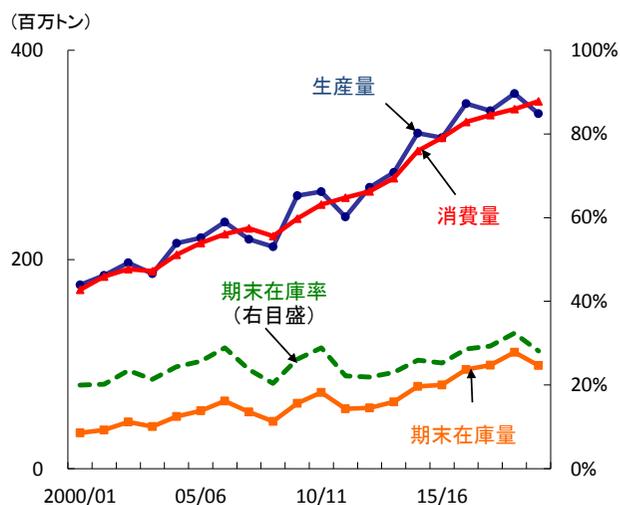
<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑
 ・ブラジルで上方修正され、前月から上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・中国等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・米国、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2020.2.11）をもとに農林水産省で作成。

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

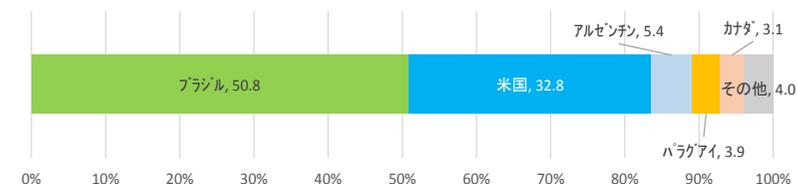
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	342.1	358.7	339.4	1.7	▲ 5.4
消費量	338.1	343.6	351.1	1.0	2.2
うち搾油用	294.6	298.1	304.3	0.8	2.1
輸 出 量	153.1	148.3	151.5	2.3	2.2
輸 入 量	153.3	145.4	150.8	2.9	3.7
期末在庫量	99.1	111.2	98.9	2.2	▲ 11.1
期末在庫率	29.3%	32.4%	28.2%	0.5	▲ 4.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 February 2020)

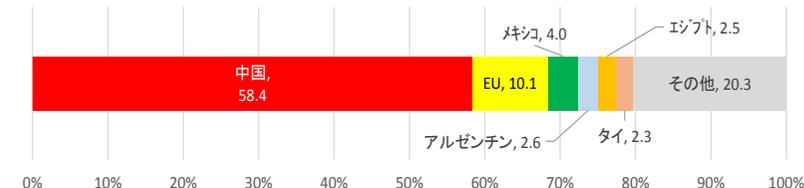
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(339.4 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(151.5 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(150.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比19.6%減の96.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月予測から1.4百万トン上方修正され、49.7百万トンの見込み。USDA「Oil crops Outlook」(2020.2.13)によると、本年1月の米中通商協議の一次合意(2020年、2021年の2年間で米国産農産物を800億ドル輸入)に伴い、中国が米国産農産物の輸入を増加させることを約束したことにより、対中国農産物輸出の大半を占める大豆の輸出の増加期待が理由とされている。(図参照)

輸出検証高(2020年1月2日～2月6日)は、5.65百万トンである。(下表参照)

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.8	-	▲ 19.6
消費量	58.9	60.5	60.8	-	0.4
うち搾油用	55.9	56.9	57.3	-	0.6
輸出量	58.1	47.6	49.7	1.4	4.4
輸入量	0.6	0.4	0.4	-	7.9
期末在庫量	11.9	24.7	11.6	▲ 1.4	▲ 53.3
期末在庫率	10.2%	22.9%	10.5%	▲ 1.4	▲ 12.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.36	-	▲ 14.4
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.19	-	▲ 6.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 February 2020)

米国の大豆輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高	
		2020年累計	1月
1	中国	228.1	228.1
2	インドネシア	52.8	52.8
3	メキシコ	23.8	23.8
	その他	260.3	260.3
	計	565.0	565.0

注1: 1月の輸出検証高は、1月2、9、16、23、30日及び2月6日の合計

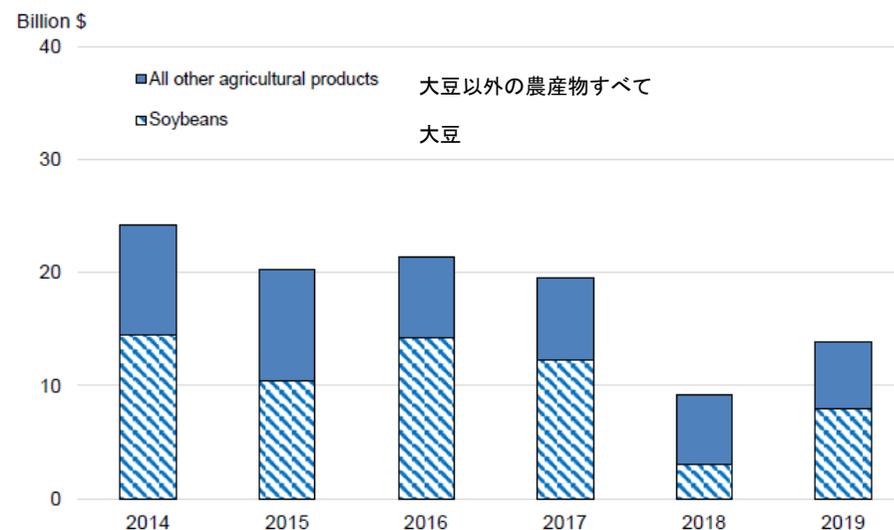
注2: 累積輸出検証高は、2020年1月2日～2020年2月6日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

(図) 米国の対中国農産物輸出額の大半を占める大豆(斜線)

単位: 10億ドル

\$40 Billion trade deal may swell U.S. soybean sales to China in 2020 and 2021



Source: USDA, Foreign Agricultural Service, Global Agricultural Trade System.

出典: USDA 「Oil crops outlook」 (2020.2.13)

大豆－ブラジル

(単位:百万トン)

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、主産地の中西部のマトグロッソ州で生育期に十分な降雨に恵まれ、12月まで降雨が少なかった南部でも1月の降雨より生育状況が大幅に改善されたことから、前月予測から2.0百万トン上方修正され、史上最高の125.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.2.11)によれば、2019/20年度の生産量は、前年度比7.1%増の123.2百万トンの見込み。

USDAによれば、2月9日から15日の間、ブラジルの中部・北部の主産地で、多くの降雨があり、土壌水分を補給し生育に良好な状況が継続している。中西部のマトグロッソ州では収穫が本番を迎え、収穫進捗率は58%(2月14日)、南部のパラナ州でも収穫が開始され、収穫進捗率は10%(2月10日)となっている。品質は非常に良い状況。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から0.2百万トン上方修正され、46.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、増産見込みにより、前月予測から1.0百万トン上方修正され、史上最高の77.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によると、2020年1月の輸出量は1.5百万トンで、前年同期比27%減となっている。内訳は、1位が中国で1.1百万トンと全体の73.6%を占めている。

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	122.0	117.0	125.0 (124.0)	2.0	6.8
消費量	46.5	44.9	46.4 (…)	0.2	3.4
うち搾油用	44.2	42.5	43.8 (…)	-	2.9
輸 出 量	76.1	74.6	77.0 (…)	1.0	3.2
輸 入 量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	7.1
期末在庫量	32.7	30.4	32.2 (…)	1.0	5.8
期末在庫率	26.7%	25.5%	26.1% (…)	0.6	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (37.00)	-	2.8
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.39 (3.35)	0.06	4.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(24 January 2020)

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、開始。

2020年2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度	2019年												2020年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし																					
冬とうもろこし																					
大豆																					

資料: Conab穀物レポート(2020.2.11)

写真 中西部マトグロッソ州の大豆(2月1日撮影)
降雨に恵まれ順調に生育。



< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。1月から2月前半にかけての降雨により中央部から北西部の乾燥していた地域の生育に恩恵をもたらした。

「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.2.20)によれば、2019/20年度の作付けは終了し、作付面積は17.4百万ヘクタール、生産量は降雨に恵まれ生育状況が良好なことから、1月時点(51.3百万トン)から上方修正され53.1百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、51.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月予測からの変更はなく、8.2百万トンの見込み。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。なお、フェルナンデス新政権は、財政赤字の改善等のため、2019年12月14日、12月23日と2回にわたり、大豆、大豆油かすの輸出税を約25%から30%、さらに33%へ引き上げた。

大豆—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	53.0 (52.5)	-	▲ 4.2
消費量	43.6	47.5	51.7 (…)	-	9.0
うち搾油用	36.9	40.6	44.6 (…)	-	9.9
輸出量	2.1	9.1	8.2 (…)	-	▲ 9.9
輸入量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 39.2
期末在庫量	23.7	28.9	25.9 (…)	-	▲ 10.4
期末在庫率	51.9%	51.1%	43.2% (…)	-	▲ 7.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.50 (17.00)	-	5.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.03 (3.09)	-	▲ 9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 February 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(24 January 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆(2月2日撮影)

天候に恵まれ順調に生育。3~4月にかけ収穫見通し



< 中国 >

【生産・生育状況】前年 12 月 6 日に公表された中国国家统计局のデータによれば、生産量は、前年度比 13.3%増となり史上最高の 18.1 百万トンの見込み。

2019/20 年度の収穫面積は、政府による大豆生産への高い補助金により農家の作付け意欲が増したことから 9.3 百万ヘクタールと対前年度比 10.6%増加した。

【需給動向】USDA によれば、前年の A S F の甚大な影響からの回復の初期段階を迎え、中国国内における搾油用消費量を 1.0 百万トン上方修正し、86.0 百万トン、期末在庫量は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、21.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、米中通商協議一次合意による米国産大豆の輸入増加期待から、輸入量を前月予測から 3.0 百万トン上方修正し 88.0 百万トンとした。

中国財政部は、2 月 14 日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税 30%のうち、2019 年 9 月追加分の 5%分を半減させ、追加関税を 27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2 月 18 日、1 年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

なお、USDA 「Oil crops Outlook」(2020.2.13)によれば、中国武漢で発生した新型コロナウイルス肺炎の影響で、労働者の移動に制限が課せられる等の状況となっていることから、搾油工場での大豆油かすの生産や販売が阻害されると指摘している。

中国の貿易統計によれば、2019 年 12 月の輸入量は 9.5 百万トンと、前年同月と比べ 3.8 百万トン増加した。なお、2019 年の累計輸入量は、88.6 百万トンとなり、2018 年(88.0 百万トン)より 0.6 百万トン、0.6%増となった。2019 年の輸入の内訳は、ブラジル産 57.7 百万トン(65%)、米国産 17.0 百万トン(19%)である。

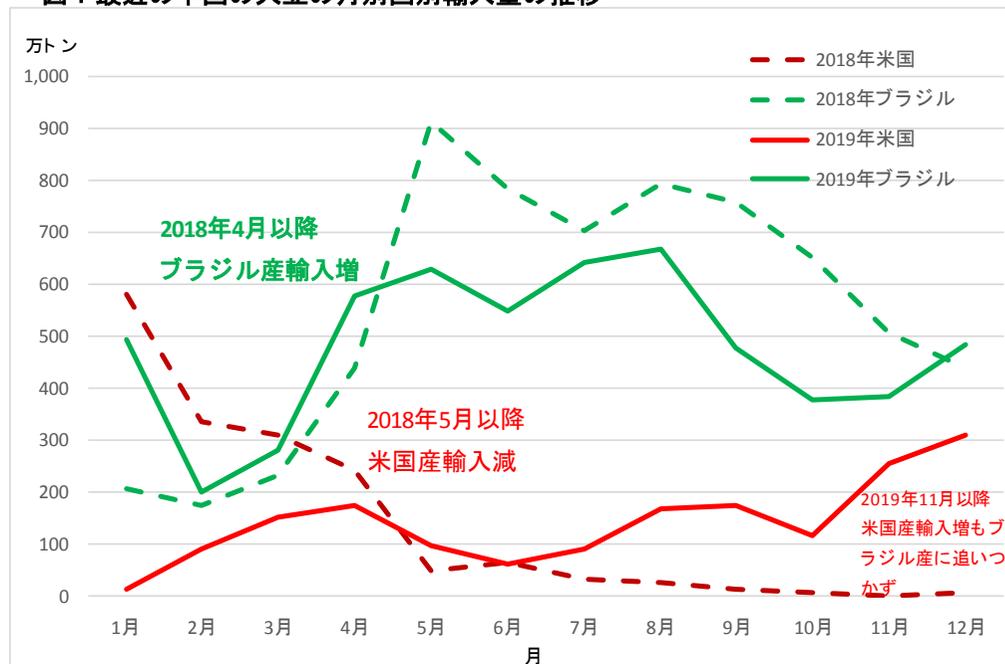
大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.3	16.0	18.1 (15.7)	-	13.3
消費量	106.3	102.0	103.7 (…)	1.0	1.7
うち搾油用	90.0	85.0	86.0 (…)	1.0	1.2
輸 出 量	0.13	0.12	0.13 (…)	-	8.3
輸 入 量	94.1	82.5	88.0 (…)	3.0	6.6
期末在庫量	23.1	19.5	21.7 (…)	2.0	11.7
期末在庫率	21.7%	19.1%	20.9% (…)	1.7	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.41	9.30 (8.42)	-	10.6
単収(t/ha)	1.85	1.90	1.95 (1.87)	-	2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(24 January 2020)

図：最近の中国の大豆の月別国別輸入量の推移



出典：中国海関統計

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2020.2.14)によれば、2019/20年度の生産量は、対前年度比18.5%減の6.0百万トンの見込み。生育期に天候に恵まれず、収穫面積が減少した。さらに、特にカナダ西部で収穫時に悪天候となり、収穫ロスが発生した。

これから作付けされる2020/21年度については、価格の低迷により、作付面積が、前年度の2.31百万ヘクタールから2.23百万ヘクタールに減少するものの、単収が過去5年平均の2.9トン/ヘクタールに回復すれば、生産量は6.4百万トンと前年度より増加すると見込んでいる。

【需給状況】AAFCによれば、2019/20年度の搾油用消費量は、生産量減少と、搾油需要が一部なたねにシフトしているため、前年度(2.1百万トン)を下回る1.8百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、4.7百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.0 (6.0)	-	▲ 17.4
消費量	2.9	3.0	2.7 (2.5)	-	▲ 9.5
うち搾油用	1.9	2.1	1.9 (1.8)	-	▲ 8.5
輸 出 量	4.9	5.3	4.7 (4.3)	-	▲ 10.6
輸 入 量	0.5	1.2	0.9 (0.4)	-	▲ 23.2
期末在庫量	0.6	0.8	0.4 (0.3)	-	▲ 58.4
期末在庫率	8.1%	10.2%	4.7% (4.4%)	-	▲ 5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.27)	-	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.61 (2.66)	-	▲ 8.7

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(11 February 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(14 February 2020)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2020年2月下旬までに 発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しましたが、USDAの2月レポートではEUに含まれていることから、当面、EUに含めて取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
	TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
	FAX：03-6744-2396

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2020年2月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。
農林水産省 海外食料需給レポート
http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
--